

かみ の その  
上園遺跡

大野城市教育委員会



市の中央部にある古墳時代から平安時代の集落遺跡です。通常の集落遺跡と違って、須恵器が多量に見つかることと、近くに須恵器を焼いた窯跡があることから須恵器作りの工人の村ではないかと考えられる遺跡です。通常の集落遺跡の住居跡からは須恵器よりも土師器の方が多く見つかるのですが、ここでは、逆です。

また、須恵器の甕を、丸く掘った穴に入れたりしています(左の写真)。この遺跡で、窯で焼き上げた須恵器を持ってきて仕分けしたり、各地へ送り出したりしたのかもしれない。



### 遺構検出

発掘調査で<sup>たてあなじゅうきょあと</sup>竪穴住居跡などを掘っていると、どうしてわかるんですかという質問を受ける時があります。左の写真は住居跡を掘る前の状況です。ある深さまで土を掘り下げると、このようにきれいな住居の形がわかります。ちょうど、アスファルト道路で工事のあとがわかるのといっしょです。



### 掘り下げ

住居跡がはっきりしたらその部分だけを少しずつ掘り下げます。すると柱の穴やかまどの跡、そして古代の人々が使った土器などが見つかります（左の写真）。

左下の写真はかまどの跡です。高杯の脚の部分などを鍋や釜をかける時の支脚のかわりに使っています。



### 出土品

上園遺跡の住居跡や溝から多くの須恵器や土師器が見つかりました。下はその一部です。右半分が5世紀後半のもの、左半分が6世紀中頃から後半にかけてのもので、古墳時代中頃～後半に属します。上園遺跡では須恵器の方が多く見つかりました。

